

堀口先生

前略

先生におかれましては、日々御健勝の事とお喜び申し上げます。

待ち望み受けた手術から半年が経過しまして、日々排尿の状態も安定しており、トイレに行くことに喜びを感じております。

術後2回目の外来受診にあたり、周術期のことを少し回想してみました。私の場合、金曜日に入院して月曜日に手術を受けるスケジュールでした。

術前はとにかく風邪などをひかないように、病院内でもマスク着用、頻繁に手洗いうがいを中心掛けました。当日は歩いて手術室に向かうと、麻酔科の先生がお待ちになっており、横になると直ぐに全身麻酔の導入が行われたようでした。

気がついた時は手術が終了して、堀口先生に話しかけられ、摘出した狭窄部分を見せていただけました。ですが、麻酔の影響か視界がとても暗く、摘出組織の入った瓶しか見えませんでした(笑)

ベッドに移され病室に戻り、いよいよ平和が訪れたと思っていきましたが、大きな苦難が待っておりまして。まずは、両腕にセンサー類、両足に血栓防止用の器具が装着されました。

これ自体は、現代に手術後に装着するものとして普通だと思いますが、実際に付けてみると身動きが全くできず、不快感はかなりのものでした。これに追い打ちをかけたのが、その後襲って来た腰痛でした。ベッドの角度がフラットで自分に合っていないようで、体位を変えることもできずこの痛みは本当に強烈でした。流石に看護師さんに痛み止めを打って頂きましたが、何度も使用できる痛み止めではないと分かっていたので、なるべく間隔を開けて使用して頂きました。

手術当日の夜は注射を打って頂き、腰の痛みがなくなると2~3時間ほど続けて眠れますが、痛くなると起きてしまうことの繰り返しでした。

ようやく朝を迎えると通常の食事が出されましたが、半分程度で満腹になってしまい、入院後初めて完食できませんでした。朝→昼→夕と徐々に食欲は改善して夕食は完食することができました。また、ベッドのギャッチアップが少し許され、腰の負荷は大幅に減少しました。

術後2日目の夕方に色々なチューブ類が外れ始め、大幅に快適度が上がってきました。尿のチューブは2-3週間入れっぱなしということでしたが、尿道自体にはそれほど不快感はありませんでした。むしろ膀胱ろうの方が何倍も負担が大きいと思いました。そして陰囊、陰茎にモッサリとした汗ばんだ様な違和感が持続しておりました。

しかし、創部の痛みは幸にもほとんどなく、清潔に保つことを心掛けて、感染などもせずに縫合されました。

そして尿道のチューブを抜く時を迎え、自力排尿をした時には、自分にこれ程の排尿パワーがあるのかと、驚きを感じたことを鮮明に覚えております。

うまくいかない場合は、最初の一か月で再狭窄が起きやすいというご説明を受けておりましたが、無事にその期間をクリアして本日を迎えることができました。

前述のモッサリした不快感は、私の場合は術後4か月程度で完全に消失しました。

最近、部下から顔立ちが穏やかになったと言われましたが、排尿障害があった時は何らかのストレスが存在し、表情に現れていたのかもしれません。

手術前後でダイエットも含めて14キロほど減量したのですが、術後の安静と退院後の気持ちの緩みから、現在4キロほどリバウンドしています。強い陰部の圧迫を避ければスポーツも概ね問題無いとお許しが出ましたので、夏に向けて再びトレーニングに励みたいと考えております。

先生には本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。